少年と空 - EAGLE KNIGHT -

マーベリック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年と空 - EAGLE KNIGHT -

【Nコード】

N5181J

【作者名】

マーベリック

【あらすじ】

戦争を通して人とは何か、自分とは何かを問いたして、空を飛んだパイロットの少年、風宮翔の泣いたり笑ったりの小さな物語です。

MISSION 0 プロローグ（前書き）

諸事情で長く編集できず本当にすみません。

そしてこの度、しょね空はリニューアルいたす！！

活目せよ！！少年たちが飛んだ空を！！

MISSION 0 プロローグ

灼熱の第二次世界大戦が終わった世界に今度は極寒の冬が訪れた。「冷戦」と呼ばれる冬が。

溶けては固まり、溶けては固まる氷はある時、完全に溶けた。

1983年 尖閣諸島沖にてプロトニウム発見

莫大な量の石油が埋蔵されている推測されていた尖閣諸島は社会主義国家の中国と資本主義国家の日本が領有権を巡って小競り合いをしていたが、この「プロトニウム」が発見されたせいで小競り合いは武力衝突へとエスカレートした。

プロトニウムの特徴は持続的かつ強大なエネルギーを発生させることと圧力をかけると個体、液体、そして気体に還元できることだ。

しかもこのプロトニウムは地下に2000兆トンも埋蔵されている。この島を取った者が冷戦を制す。と言っても過言ではない。

1992年 中国、北朝鮮、ソビエト連邦に加盟。

1993年 ソ連 国連を脱退

国連から脱退したソ連。これは世界の安全保障のシステムの崩壊を意味した。

その事に脅威を感じたアメリカ大統領のJ・ブッシュはニューヨークに西側の首脳を極秘に集め、ある「会議」を行った。

1995年

アメリカ、NATOを解体。後に西部資本主義連合（Western Capitalism Union）を設立。

この組織にはアメリカをはじめとする資本主義国家が加盟している。

これで世界は完全に二つの国、二つの思想に分かれたのであった。

武力が抑止力となる平和は、ちょっとした衝撃で崩れる積み木の城のように脆弱なものであることは歴史が証明していた。

1999年 ソ連、西部連合に宣戦布告

ソ連には理由があった。朝鮮半島にある38度線付近で遊んでいた少女を国境の警備兵が射殺したからだ。

この事件によりソ連の国民感情は爆発。ソ連の代表、ブレジネフ書記長は怒る国民を抑えれず取った選択であった。

世界中の軍力が衝突する戦争。これは歴史が始まってから三度繰り返された。しかし今回は勝手が違う。「核兵器」があるからだ。

両国は核を使わなかった。核を使えばどうなるかくらい分かっている。

しかし血は流れる。多すぎるくらいに。

そして国は、未来を担う少年や少女に銃を持たせ殺し合わせるようになっていく。

MISSION 1 始まりの風(前書き)

たびたび、すみません。また再々リニューアルしました。

前回のやつ、自分に合っていないと思ったので書き直しましたWWW

遅すぎWWWとか言わないで下さい。

では、本編始まります

MISSION 1 始まりの風

2015年 4月12日 午後8時30分

太平洋 第7太平洋機動艦隊 J・グラフトン 居住区

太平洋を東へ、東へと突き進む船団、太平洋第7艦隊の旗艦、J・グラフトンの居住区の通路を全身黒づくめの服に銀行強盗を彷彿させる黒いマスクを被った二人の見るからに怪しい男達が二人、体勢を低くして歩みを重ねていた。

「二等兵、任務の概要を報告せよ」

「はっ軍曹。資本主義の犬共の機密を撮影。偉大なる將軍様にそれを献上することあります」

二等兵と呼ばれる屈強そうな体躯を持つ長身の男は軍曹に任務の概要を述べた。

「よろしい。ならば急いで任務に取り掛かるぞ」

ふふふ、と低い声で笑い声を軍曹は漏らす。

「サー！！敵兵であります」

T字路越しにパトロールをしている巡回兵の姿を見つけた二人は手近な部屋に飛び入った。

隠れた部屋には無機質なロッカーとその先に、薄いガラス戸がある。

そして、石鹸のほづじゅんな香りと水の音が溢れる空間であった。

「どつやらここのようなようだ」

軍曹は確信の笑みをマスクの下で見せる。だが、二等兵は訝しい様子で軍曹を見て、そして問うた。

「ここに在るのですか例の『軍事機密』が？」

「その通りだ二等兵。あれを準備しろ」

「はっ。ここに」

そう言った二等兵の手にはCANONのデジカメが用意されている。

軍曹は熟練されたフットワークでガラスに接近。扉をゆっくり慎重に開く。その幅は約一センチ。作業を終えた軍曹は二等兵に『来いとジェスチャーを出した。

その指示通りに二等兵は中腰姿勢ですばやく移動。軍曹の背後に回り込み、彼の作った隙間の向こう側に存在する『撮影目標』を一心不乱に取りまくる。

重要な作戦が故に緊張のために浅くなった呼吸で手元が揺れる。だが、歯を食いしばり手ブレを抑えた。この任務はいかに正確に写真を撮影するかで成否が左右されてしまう。ミスの許されない危険な任務である。

「……………もう、無理です。はあ……………はあ……………はあ……………はあ……………はあ……………はあ……………はあ……………」

……がはっ」

荒い呼吸が無くなったと思われた刹那、どさりと鈍い音が軍曹の背後でした。

「ん？」

音につられた軍曹は背後を一瞥した。だが、後方では惨劇が起きていた。

「に、二等兵!？」

驚きを隠せずに軍曹は小さく叫ぶ。なぜなら、後方で二等兵が仰向けに倒れていたのだから。さっきまで健康体で銃撃も予測されないこの場所で。

すかさずに軍曹はその顔にしてあるマスクを外し、二等兵の元へ駆けつけた。

そのマスクで隠された素顔はまだ、年端行かない東洋系の少年だった。

駆けつけた軍曹は、二等兵のマスクを外してやった。二等兵の正体もまた少年だった。あどけなさの残る欧州系の少年だ。

「すみません、軍曹。もう自分はだめです」

最後の力を振りしぼってカメラを軍曹に二等兵は手渡そうとした。その手はプルプルと振るえ、そしてその顔、鼻の辺りから出血が見られる。

「自分の屍を超えてください……軍曹」

普通の指揮官ならここで彼を見捨てる。しかし、彼は違った。

「行くぞ二等兵。閣下の下へ」

軍曹はそう言って、二等兵のカメラを持つ手を取り自分の肩を貸した。

「す……すみません。軍曹」

二等兵は涙を瞳に浮かべ、軍曹に感謝の意を伝えた。

「気にするな行くぞ」

二等兵を軍曹抱えながら軍曹は踵を返す。その場から撤収し彼を治療するため、撮った機密を『閣下』に献上するため。

ガラガラ

背後の扉の開放音。人の気配。その両者が軍曹に背後を確認させた。

「げっ!!光!!」

一瞬、軍曹は言葉を呑んだ。彼の視界には、ショートヘアで体にバスタオルを纏った可憐な少女がいた。しかし、彼女のタオルの下にあるはずの胸は平らたく、関東平野を彷彿させた。

そして、始まるのであった。本編が。

一時間後……

「翔！！フランク！！てめえら何回目だ！？女子シャワー室覗いたの！？」

一条明大尉は、軍曹と二等兵に怒鳴りつけた。

ここは、空母J・グラフトン所属の航空隊、第184航空隊ヘルハウنزの待機室である。

そして、今お叱りを受けている二人の少年の一人、『軍曹』こと風宮翔少尉は指を折って回数を数えている。その相方の『二等兵』、フランク・ウィルディ少尉はその姿を見てため息をついていた。

この二人は、このヘルハウنز所属のイーグル小隊でパイロットの任を担っている16歳の少年兵である。

「……6、7、8、9、10……わかりました！！32回です！！」

「一回殴るぞ。グーで」

「すみません」

ぺこりと頭を翔は下げた。あまり反省した様子を見せずに。

「もう良い。お前ら、公用トイレ掃除3ヶ月の刑だ」

「そんなあ、自分たちは……」

翔は抗議をしようとしたが、隊長はそれを遮る。

「本当は3ヶ月飛行停止にしてやろうと思ったんだぞ。だがな、今の戦況で飛べる奴を飛行停止にできるほど今の戦況は甘くないんだ。ホントはお前ら軍法会議モンだからなありがたく思えよ」

「はい」

「イエス・サー」

不満の色を残して、二人はその指令を受諾。それを確認した明は『解散』の一言を出した。

「失礼しました」

二人はそう言い残し、敬礼。そのまま待機室を出ようとしたが明は呼び止め、言った。

「カメラは没収な」

「なぜですか!?!」

そう言われた途端、さっきまで平静を保っていた、フランクは血相を変え抗議する。

「盗撮写真の入ったカメラなんて没収意外どうすんだよ。そもそも、お前達はこの俺、將軍の為にやったことだろ……あ……あ……」

自分の失言に気づいた隊長は、口を押さえて隠蔽しようとした。

將軍……それは、ソーシャルネットワークサイト『MAXI』にある、この空母のサークル内で『女の子の写真 買います』で有名なS級の変態である。そして、この二人は彼のため、自分の為にこの無謀な任務を敢行したのであった。

「ごほん、と言う訳だ。早く渡せ。これは、上官命令だ」

上官の命令が絶対の軍隊でこの言葉は上の者にとっては最強の武器であり、下の者にとっては最凶の脅迫である。

「はい。了解です」

翔はポケットから潔くカメラを出して、彼に差し出した。

「翔!?!」

フランクは彼の名を呼び、制止させようとしたがカメラは隊長の手に渡ってしまった。

「失礼します」

翔は踵を返し、その場を去った。その背を追うようにフランクも敬礼し去る。

待機室から出た翔とフランク。フランクは不満そうな表情で翔に言った。

「何で渡しちまったんだ？」

その声とともに鉄面皮を保っていた翔は破顔一笑する。

「どっしたんだ？」

突然笑い出した翔にフランクは訝しい表情を見せた。

「見ろよ。これ」

手のひらには一枚のメモリーカード。

「翔、お前まさか……」

「ああ。すり替えたさ。今頃、隊長は……」

ふふふ、と翔が笑みを笑いをこぼしたのと同様、待機室のあたりである。叫び声が廊下に響く。

「何じゃこりゃあああああああああつあああああああああ
あああ」

「俺が、教えよう」

フランクが一步前に踏み出し言った。翔は彼がきつと上手くやり過ぎたのであろうと思った。そして期待の第一声は。

「この、メモリーカードに入っている。可愛い娘ちゃん達のシャワー姿の写真を見てウハウハする事だ。どうだお前も、一緒に……」

その続きは誰も聞けなかった。彼女の華麗なドロップキックがフランクを強襲。彼はパイロットらしく後方へ3メートルは吹っ飛んだ。

「どういうことかなあ？説明してくれる？」

ドロップキックの着地のせいで崩れた態勢を立て直した光は笑顔だった。どこか、人を殺しそうな。

「あ……これは、その……はい……ごめんなさい」

頭を下げ、光に翔はメモリーカードを差し出した。そして、そのカードを光は受け取った。

「翔」

「はい」

顔を上げた翔に光は満面の笑みを浮かべた。

「この、馬鹿ちゃんがああああああ」

その瞬間、翔もまた空を舞う。フランクより高く、遠くへ。

どき、と音を立て落着した翔は光に一言。

「なんで……こんなことを……」

光は翔に言った。

「この、ラブリーチャーミーなあたしの体を見れたのよ。命があるだけ神様に感謝しなさいよ」

「けつ。なにがラブリーチャーミーだ。ノーオツパイの間違いだろ」と吐き捨てた翔に光はギロリとにらんで言う。

「何？今度は海に落とされたいの？」

「いえ、何でもありません！！美人端麗、才色兼備の吉田光様！！」

「よろしい。それと二度としないうって誓う？」

「はい！！」

福島名物の赤べこが如く首を縦に振り首肯する翔に光はさらに問う。

「ホント？」

「もちろんです！！」

「なら、お詫びとして、売店でアイス」

「はひ？」

突然の事に翔は困惑を隠せなかった。

「お詫びにおごれつての。嫌って言うなら、皆にばらすわよ。盗撮した事」

どうやら、この事件を知るのは隊長と光だけのようだった。

脅迫にも似たおねだり。翔には選択の余地がなかった。

「はい」

「よろしい」

そう言つて光は倒れている翔に手を差し伸べた。

しかし、そんな平穏な空気も戦争は壊す。

けたたましいサイレンが廊下に響き渡る。そしてスピーカーからはアナウンスが流れた。

『敵航空団が本艦に接近。総員、第一種戦闘配備。ヘルハウズ、スターダナーズは緊急発進せよ。繰り返し……』

敵の来襲。光はさつきとは裏腹に不安げな表情で翔に話しかける。

「敵襲だよね」

「ああ。俺達行かないといけないな。アイスは帰ったらな。おい！」

「フランク」

倒れているフランクを翔はつま先で突つついた。

「スクランブルだ」

「あいよ」

フランクはそう言って、素早く立ち上がって翔と共にロッカールームへ走り去ろうとしたが、光が口を開く。

「二人とも!!」

「どうした？」

翔とフランクは振り向いた。そして、彼女は二人に言った。

「絶対に帰ってきなさい」

「わーってるって」

笑顔で翔は答えた。

そして、走り出す。

死地、戦場とも呼ばれる空へ少年や少女達は向かう。名誉の為、家族の為、愛する者の為に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5181j/>

少年と空 - EAGLE KNIGHT -

2011年11月2日14時11分発行